10.11.19

資料　５－１

身近な野生生物の観察事業について

１．背景

環境省では、平成17年度から21年度まで、「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について」（以下「ExTEND2005」）に基づき、化学物質の内分泌かく乱作用に関する正確で分かりやすい情報提供を行うことを目的としたリスクコミュニケーション事業の一つとして、主に一般市民、子どもを対象とした「身近な野生生物の観察事業」を実施した。

当検討会におけるEXTEND2010の策定に向けた議論の中で、同事業は、今年度以降実施しないこととされたが、これまでの成果については、生物多様性条約締約国会議(COP10)に併せて開催される「生物多様性交流フェア」で、紹介するべきだとの指摘がされていた。

このため、環境省では、本年10月に開催された「生物多様性交流フェア」において、環境省における内分泌かく乱作用に関する取組とともに、これまで一般市民や子どもが実施した各地域における野生生物の観察結果等、同観察事業の成果を展示し、化学物質の内分泌かく乱作用問題についての普及啓発を図ったところである。

２．出展概要

○出展日時　：平成 22 年 10 月 18 日（月）から 10 月 29 日（金）
（平日 9:30～18:30、土日 10:00～16:00、※最終日 9:30～15:00）

○会場　：愛知県名古屋市白鳥地区（名古屋国際会議場隣接地区）

○主催　：生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会

○展示内容　：・環境省の内分泌かく乱作用に対する取組の紹介パネル展示
・これまでに当事業に参加した団体のうち代表４団体*1の活動を紹介するパネルの展示*2
・内分泌かく乱作用に係る最新研究を紹介するパネルの展示*3
・関連資料（EXTEND2010 冊子、かんたん化学物質ガイド、団体作成リーフレット・活動記録等）の配布・閲覧　　他

＊1　エコクラブ JNW（愛知県瀬戸市）、山崎川グリーンマップ（愛知県名古屋市）、大阪府立高津高等学校生物研究部（大阪府大阪市）、にこちゃんず（岡山県赤磐市）

＊2　各団体のパネルには専門家からのコメントを併せて付し、専門的見地からの考察・視点もブース来訪者向けに紹介する内容。
御協力いただいた専門家：青山博昭（残留農薬研究所）、斉藤秀生（自然環境研究センター）、戸田光彦（自然環境研究センター）、花里孝幸（信州大学山岳科学総合研究所）

＊3　自然科学研究機構基礎生物学研究所井口研究室　提供

３．開催結果

開催期間中は、１２日間で延べ932人（下記参考）の来訪があり、環境省における取組及び各団体の活動等について幅広く情報提供を行った。また、実際に観察を行った団体にも来訪いただき、一般の方への説明対応に参加いただくなど、情報交換、相互交流の場としても活用いただいた。

同観察事業について取組を知っていただく機会となった一方、化学物質の内分泌かく乱作用問題については、内容の難しさから来訪者より様々な質問を受け付けており、一般の方々が必要とし、かつ正確さと分かり易さを備えた情報提供のあり方については、今後も留意する必要がある。

なお、開催結果については、追ってホームページに掲載の予定である。

（参考）期間中のブース来訪者数（10 月 18 日（月）～29 日（金））

	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)
人数	45	46	64	61	87	112	165	57	57	91	78	69